

# 手を洗おう会 会報



第一版 2004年6月発行

## セネガル経過視察報告～嬉しい手洗い指導効果

「食い倒れの国」と呼ばれる象牙海岸に対し「着倒れの国セネガル」と言われる所以。「衣・食・住」の内「食」は節約しても「衣」だけは儉約できず、オシャレには贅を尽くしたいセネガル人。資源の乏しい国とはいえスーパーモデル、ナオミ・キャンベルのような十頭身の女性がカラフルでお洒落な洋服に身を包むのも当たり前かのようなお国柄です。人口 1000 万人、2004 年現在、国民一人当たりの GDP が日本の百分の一と決して豊かとはいえない暮らしの中、知的レベルは群を抜き、日々の生活にゆとりがあるようにさえ感じます。あのかもしかのような足を使い、高い位置にある腰をひねりながらゆったりと優雅に歩くその姿がそう思わせるのでしょうか。

ごく最近まで口承伝達法により文字を持たなかったこともあり記憶力もかなり優れています。その記憶力は老人になっても保たれ『一人の老人の死は大きな図書館を燃やしてしまうことに通じる』というベストセラーの本がその事実を語っています。セネガルでは記憶の脳細胞を鍛える必要性をひしひしと感じます。文字に頼らない分、表現力が豊か。またダカールにたった二つしかない本屋さんで乙武洋匡著『五体不満足』がよく売れていることも驚きでした。

今年 3 月末から 4 月にかけてそのセネガルへ一年半ぶりに再訪問。リベルテ・サンク小学校に出かけてみて何といても嬉しかったのは、セネガルの子供たちと日本の子供たちの絵が並んで各教室に飾ってあったこと。その 13 クラス各々で一年余、手洗いを実践していたことがよく分かる「手洗い」のデモンストレーションを生徒たち自ら行なってくれたことでした（写真上参照）。

そしてこの度最大の視察目的は、ダカールから北に 60 キロほど離れたタイバンジャイ村への訪問です。この日は 3 月にしては珍しく太陽の照り付ける暑い日でうかつにも飲料水を持たなかった為喉がカラカラ。ガソリンスタンドでやっと手に入れたコココーラは枯渇した喉を活性化してくれました。アフリカでしか見られないバオバブの連立する砂漠のような平原を抜け予定よりかなり遅れて到着したタイバンジャイ村。私達を先ず迎えてくれたのは、キラキラと輝く目をした子供達の笑顔でした。この村には日本のプロジェクトが建てた日の丸とセネガルの旗の付いた高さ 15 メートルほどの給水塔が 2 塔建っているのですが、その周りになんと 120 名もの女性たちが集まってくれていたのです。その女性たちが着ているブーブーと呼ばれる民族衣装のカラフルでオシャレなこと。頭に巻いているターバンと洋服（たっぷりした袖のついた上着と腰巻風のスカート）の布地はお揃い。しかも小粋で自然なのです。女性たちは数少ない出席者の男性より「どうして手を洗う必要があるか」、又「子供にとって絵画などの情操教育が何故必要であるのか」などという話に熱心に耳を傾けます。流石、自分たちの手で給水塔の管理をし、使用量まで現金で徴収する自立した女性たちです。彼女たちの目的は、水をきちんと活用し品質の高い農作物や家畜を養うこと一費用対効果を上げ、生活の向上をはかる事なのです。



JICA と協力事業を行っている日本テクノ（株）ではこのタイバンジャイ村同様これまで建てた給水塔(109 塔)の内 23 箇所の村で昨年 1 月より『安全な水とコミュニティ活動支援計画』という村落開発技術協力プロジェクトを開始。このプロジェクトは水汲みの重労働を軽減された女性の社会進出や子供達の就学などより良い生活改善を支援し続ける技術協力活動です。このプロジェクトは 2007 年以降にはセネガル自らの手で全土へと波及つまり「自立」してもらう為の援助活動という訳です。『手を洗おう会』では、日本テクノ（株）へ手洗い衛生向上活動を同村で行なうべくお願いをいたしました。またこの度村へ同行してくれた水利局技官のアミナタ・ゲイ女史は、『手

洗おう会』の現地責任者の一人でもあるので、彼女の存在は会の活動していく主旨「目に見える支援」という視点からも心強いものがあります。

また JICA 所長小西淳文所長、影山ご夫妻にお目にかかり、有志青年協力隊への働きかけをお願いし、勿論 JICA からの協力も快諾して戴きました。

セネガル視察最終日、ヴィヴィアン・ウッド大統領夫人との謁見もかないました。令夫人は紙芝居での手洗い普及に非常に関心を示され、又水プロジェクトについて有機野菜の栽培を訴えられ、又『手を洗おう会』がケトルセットを寄付している学校への訪問を約束されました。現地責任者候補のアミダナ・ゲイさん始め5人の会員で大統領夫人に2時間以上もの間、活動状況などをご報告。日本の会員への感謝の意と上記のような感想もいただき官邸をあとにいたしました。1週間という短い滞在の中、多くのセネガル人の優しさに触れ感謝で一杯の気持と共に真夜中、最終目的地に向いました。



パリでは青年協力隊員としてセネガルへ向う位田和美 (Mlle.Kazumi・Inden) さんと落ち合い、協力隊員及び『手を洗おう会』会員としても力一杯、活躍していただけるようさんにエールを送りました。(山田順子&古屋典子記)

## ハノイの経験

2004年2月27日～3月5日にかけて、ハノイへ行って参りました。メインイベントは日本大使館にてのお茶会・人形展・華道展でした。180名程のお客様がいらして、日本の代表的な伝統文化を堪能され、特に裏千家家元も来訪されたばかりという素晴らしいお茶室。国際色豊かなご来客の皆様はその茶室でのデモンストレーションを興味深げに見入り、大盛況となりました。静寂なる日本大使館を一步出ると、道路は行き交うオートバイで埋め尽くされておりました。3人乗り、4人乗りは当たり前。地盤が弱く鉄道という交通手段が発達していないハノイでは、主要交通機関としてのオートバイが人々の生活必需品です。一家族は、5、6人が当たり前のヴェトナムでは、近年の激しい人口増加にブレーキをかける為「一人っ子政策」ならず、「二人っ子政策」が敷かれていると言うのも膨大なオートバイの数から納得出来ました。



ハノイでは「私立グエン・フエ小学校 (児童数 615 名)」「ハノイ日本人学校」「リュウザイ幼稚園 (児童数 240 名)」「私立ドアン・ティ・ディエム小学校 (児童数 1,500 名)」の4校を訪問致しました。弊会のパンフレット・石鹸・タオルを配らせて頂きましたが、どの学校の校長先生も非常に好意的で、今後も石鹸・タオルの支給・子供絵画展への出展を約束させて頂きました。ちょうど、昼食時で子供達が食事の前後に手を洗う様子を拝見出来ました。洗面所にはキャラクター付のかわいいタオルが掛けてあり、子供達は石鹸を使用し手の平・甲・指の先まで丁寧に洗っておりました。上級生が下級生に洗い方を丁寧に指導し、皆積極的に洗う姿が印象的でした。ただタオル数が児童数に比べ少ない点が残念でした。逆に、中にはタオルは児童数あるにも拘らず、水をかえない盥の中で子供達が



順に手を洗う学校もありました。SARSの影響等で衛生状態を評価した得点表が校内に掲示されている学校もあり、衛生面に対する意識の高さを感じますが、環境に関しては上記の様にまだ不十分な点が見受けられました。弊会の手洗いの大切さ・順序を説明した紙芝居を見せると、子供達は喜んでまねをしており、とても可愛らしかったです！

今回は私立校のみの訪問となりましたが、公立校ではまだ不十分な点が多いのではと予測されます。セネガルと異なり水は豊富にあるヴェトナム。今後は会員の皆様にご理解を願い、石鹸・タオルを出来る限り支給させて頂き、衛生環境の改善に貢献出来たらと願っております。(石井里江子記)



## セネガル祭と食の祭典

昨年12月1日から5日まで代官山にあるセネガル大使館に於いて西アフリカ諸国、日本から集まった子供絵画から優秀作品30点を展示し、その中から最優秀賞が決まりました。賞品はぺんてる(株)からご寄付の学用品などが贈られました。又、セネガル人、アマドウ・トゥンカラさん指導のろうけつ染絵画のワークショップがあり、出席者は思い思いの作品を作りました。セネガル民族衣装も飾られ、課外授業で訪れた猿楽小学校の六年生など多くの方々がセネガル料理を『なかなか美味しい』と味わってくれました。赤いハイビスカスのビスップジュースやジンジャージュースなどの飲み物も供出し、大いに“アフリカン”を感じた一週間でした。

途中、場所をウエスティンホテルに移し、セネガル料理の中でも代表的なチュブゼン、ヤッサなどを寺嶋シェフが料理長沼尻シェフの指揮下で腕を振るってくださいました。セネガル大使ご夫妻、ウンジャイ参事官、JICAの黒川氏

など『手を洗おう会』を応援して下さいる会員・友人約180名もの方々にお集まりいただき、ラッフルあり、オークションありと盛り沢山のひと時を過ごすことができました。

ご参加下された皆様にとりましてのこの企画、「遠いセネガルが少し近く感じられた祭典の日々だった」ならと願っております。(内野訓子記)



本年も、11月29日(月曜日)にウエスティンホテルの同会場でセネガル祭を予定しております。楽しい企画を練っておりますので手帳に印をお願いいたします。

会計報告

<“手を洗おう会”収支表>

2004年4月

【収入】		
科目	摘要	金額
会費収入	会費 (2003年度@¥3,000×60名、2004年度@¥3,000×43名)	¥309,000
	募金 @¥500×620.8口	¥310,400
	2003セネガル・エキスポジョン収益(2003/12/1～12/5) *	¥390,555
	第1回講演会収入(2003/1/26 於謝朋殿) @¥1,500×37名	¥55,500
収入計		¥1,065,455
【支出】		
科目	摘要	金額
活動費	ダカール支部活動費用(子供5,000名分石鹸・タオル・やかん・画材代)	¥427,755
	ベトナム支部活動費用(タオル・石鹸代訪問4校分)	¥25,250
ハザー用品	ダカール来訪時にて(絵画・人形等)	¥94,275
購入費	ベトナム来訪時にて(銀細工・Tシャツ・刺繍絵等)	¥56,000
会場費	第1回講演会会場費(2003/1/26 於謝朋殿)	¥35,000
備品費	ビデオカメラ・事務用品購入費用	¥121,866
雑費	バオバオの実・ヴィサップ購入費、写真現像・コピー費用	¥36,863
通信費	お礼状・案内状送付費用	¥4,400
手数料	銀行振込手数料	¥630
支出計		¥802,039
収支計		¥263,416

(会計) 石井 (監査) 山田

## 子供絵画募集

会員の皆様、子供達の文化交流のため絵画収集へのご協力をお願いいたします。

“手を洗おう会”ではセネガル、ヴェトナム、フランスそして日本、各国の小学生から楽しい絵を募集しています！

懸賞 最優秀賞 男子:サッカーボール、女子:カメラ

優秀賞:ぺんてる学用品

対象 : セネガル、ヴェトナム、フランス、日本の小学生

題 : 家族、又はモード(オシャレ着)

画用紙サイズ : A3

画在 : 鉛筆、絵の具など何でも可

第一回 締切日 : 2004年6月30日(水曜日)

第二回 締切日 : 2004年8月31日(火曜日)

後援 : セネガル大使館

## < 会員 & 募金募集 >

手をあらおう♪ 幸せのために♪

皆様も私達と一緒に、この輪に入りませんか。楽しい企画があなたを待っています♪

### 年会費: 3,000円

お支払い方法: 下記の会員にお支払い頂くか、下記口座にお振込み下さい。

日本支部責任者: 古屋 典子 (TEL&FAX: 03-3702-7468)

・振込口座: 郵便局  
記号 10080 番号 74878571  
名義 「手を洗う会」

\* 貴方様のお名前にてお振込み下さい。

『手を洗おう会』では、石鹸やタオルなどをセネガルやヴェトナムの学校等に寄付する募金を募っております。募金はどなたでも大歓迎です。

募金: 1口 500円

(内訳): 石鹸 (@25円) × 4個 = 100円  
タオル (@60円) × 2本 = 120円  
やかんセット 280円

\* 石鹸が最も必要である為、石鹸代のみでも構いません。

お支払い方法: 当会会員にお支払い頂くか、上記口座にお振込み下さい



『手を洗おう会』では、会員の皆様そして会へ関心を示して下さる皆様のご協力のお陰をもちまして、この一年半の間に2500人の子供達に手洗い方法を指導し、ケトルセットや石鹸、タオルを配布することができました。又セネガルの子供達との絵画交流も好評を博しております。画材や絵画の運搬をしていただいております日本テクノ(株)様や絵画賞品を提供下さっておりますぺんてる(株)様の心あるご協力に心から感謝申し上げます。「会」の更なる躍進の為、今後も引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます (コミティー同)。



## 活動内容

### セネガル

2002年 10月、リベリテ・サンクなど6つの小学校にケトルセット、石鹸、タオルを配布。

以後三ヶ月ごとに石鹸、タオルを配布

2003年 3月～5月「手を洗おう」と題する絵を募集

2003年 6月優秀作の展覧会 賞品を渡す

2003年 12月石鹸、タオルを配布する学校を検討 2校に絞る

2004年 3月27日、次期セネガルの責任者を検討

同日夜日本国際協力機構（JICA）の小西淳文所長に「手を洗おう会」の活動を報告

31日午前リベリテ・サンク小学校を視察—手洗い状況経過を観察

午後タイバンジャイ村を視察し手洗いを指導 バザー用品買い付け

4月1日レ・プチ・パ幼稚園を視察 サント・マリー学園を視察

2日午前会員5人でウッド大統領夫人謁見 午後 JICA の小西淳文所長へ挨拶

4月、5月「家族、またはオシャレ着」と題する絵を募集

### 日本

2003年 3月～5月「手を洗おう」と題する絵を募集

2003年 2月末 セネガルへ渡航する佐久間氏に石鹸代を委託

2003年 3月、4月にわたり、会員2人が募集した絵をパリまで運ぶ

2003年 5月、会員4人がセネガル大統領夫人と都内ホテルで会見する

2003年 6月、日本テクノの高松章二氏に絵や景品などセネガルへの搬送を託し、またセネガルの子供達の絵を日本まで運んでいただく

2003年 12月1日から5日まで在京セネガル大使館で一週間のイベント「躍動のセネガル“美・食・踊”の祭典」を行なう 12月

4日恵比寿ウエスティンホテルにて

「セネガル食の祭典」を催し、参加者178人にセネガル料理を興じていただく

2004年 2月27日から一週間、5人の会員によりヴェトナム・ハノイへ視察訪問

3月2日、日本大使公邸にてお茶会、人形展などの日本文化紹介

2004年 3月26日から4月2日 会員2名でセネガル視察

5月～8月『家族、またはオシャレ着』と題する絵を募集

### 弊会の目的と主旨： 「相互に生きるボランティア」

第一回会報発行に向け、私たちはこの会で何をしたかったのかをもう一度話し合ってみました。

衛生観念とは、人間が共同体(社会)において生活していく際、最少限身につけるべき社会人としてのモラルです。目的の第一は、地球人として共存する為の社会性の一部である衛生、中でも‘手洗い’を習慣づけてもらえたらということです。飲食もままならない人々に衛生観念を強要しても無駄ではという声もありますが、貧困対策と同時に衛生向上改革を進めなければ悪循環を繰返し、生活向上は望めません。私たちとしては石鹸・タオル・ケトルという物質的支援のみならず、現地で直接手洗い指導を続けることにより **触れ合いボランティア**として衛生教育の向上に貢献できたらと願うのです。

ボランティア活動で大事なことは、一方通行ではなくお互いに育み合うこと。セネガルから日本の子供達が学ぶことも沢山あります。それは日々の生活が厳しくとも笑いがあり、親や友達を大事にする習慣、出会った人に「こんにちは。元気ですか？僕は元気ですよ！」と笑いかける態度、一人一人の子供達が精一杯生きていること等など、現在日本人が忘れかけている、人間として何が大事かを教えてくれるものがそこにあります。

これまで日本人は諸先輩方のお陰で、国際的に「嘘のつかない、真面目で温厚、その上優秀な人々」という信頼を得る事が出来ました。しかし現在我々は、そのような信頼を裏切りがちなのではと思います。果たしてアフリカ



は後進国であり、日本は本当に先進国なののでしょうか？私たちは、むしろアフリカの中に人としての先進性—知恵の先進性を感じることがあります。第一の目的である手洗い促進活動を通し、セネガルなど開発途上国には衛生向上を支援し、日本には地球人の一人であるという自覚促進をうながしていけたらと考えます。

第二の目的は絵画交流をはかることによって、子供たちが関心を持ち合い、「違い」をお互いに受け入れ、育み合い、この地球で共に豊かに生きましようということです。その交流をきっかけに両国間での姉妹校設立へと繋がってほしいのです。絵画交流は、相互の子供達に『地球に生きるたった一人の大事な存在』であることを実感してもらえるチャンス。ボランティア活動も相互に生かされてこそ発展していくのではないのでしょうか。皆様はいかが思われますか？



このコーナーは日々の郷土生活の一部を紹介いたします。今回はセネガル南部地域、カザマンズ地方発祥の鶏肉料理、ヤッサ。夏バテには最高の栄養一杯のさっぱり味。しかも調理はとっても簡単。セネガル大使館バザーで食べてくれた猿楽小学校の小学生にも大好評、家庭科の時間に生徒たちで作ったとか。皆さんも是非、この美味な逸品を今晚味わってみてください。

材料)(4人分)鶏肉	400グラム
玉ねぎ	240グラム
にんにく	ひとかけら
レモン、又は酢	150CC
赤ピーマン	一個
塩・コショウ	小さじ1・少々
油	60CC
マスタード	小さじ2
塩小さじ	1&半
米	500CC

#### 作り方

- 1、レモン汁、マスタードを塩コショウと混ぜて鶏肉を1時間ほど漬け込む。
- 2、鍋に油をひいて、1の鶏肉を炒め火が通ったら一度取り出す。
- 3、スライスした玉ねぎ、にんにくのみじん切り、赤ピーマンを加えて炒める。
- 4、2の鶏肉と漬け汁、水40CCを加え煮汁が三分の一程度に減るまで煮込む。
- 5、ご飯は硬めに炊いてお皿に盛り付け、4をカレーのようにかけて出来上がり。

